

特集「魅力ある情報通信社会のためのモバイル通信と高度交通システム」の編集にあたって

竹 下 敦^{†1}

高度な情報通信技術を応用して豊かで魅力ある社会を実現するための研究開発が進められている。位置非依存で高速な通信を提供する次世代無線ブロードバンド技術は 3G から HSPA、さらに LTE への発展を視野にいれ、必要不可欠な社会基盤となりつつある。また、ZigBee によるセンサネットワークや WiFi による近距離通信技術、DSRC による車両通信技術などを利活用した様々な応用システムが社会に浸透しようとしている。今後は、これらの実用化または開発段階にある情報通信技術を高度に駆使し、新技術やサービスを開発さらには創出していくことで、さらに豊かで魅力ある社会を実現していくことが望まれている。

モバイル通信やユビキタスコンピューティングはそのための共通基盤であり、メディア制御や経路制御、セッション制御などのネットワーク制御技術や、状況把握技術、コンテキスト依存コンピューティングなどを融合・活用し、課題解決を図っていくきわめて重要な研究分野である。また高度交通システム (ITS) は、将来の安全安心な社会や低炭素社会を実現する鍵となるため、基礎技術から応用まで新しい発想での取り組みが望まれる分野である。

移動通信技術や高度交通システムに関するテーマでは、情報処理学会のモバイルコンピューティングとユビキタス通信 (MBL) 研究会や高度交通システム (ITS) 研究会が中心となり、毎年 70 件以上の優れた論文が研究会で発表されている。また、1997 年から開催され、発表件数が毎年 200 を超える DICO ンポジウムでも、これらの分野に関連する論文が数多く発表されており、その重要性・注目度が認識できる。

本特集号は、上記のような研究開発の成果である論文を一括連載することにより、モバイル通信と高度交通システムの今後を切り拓くことを目的として、MBL 研究会と ITS 研究会の合同で企画したものである。2009 年 11 月に論文募集公開を行い、2010 年 4 月 9 日に投

稿締め切り、同年 4 月 14 日に第 1 回特集委員会、同年 6 月 24 日に第 2 回特集委員会、同年 9 月 21 日に第 3 回特集委員会というスケジュールであった。今回の投稿件数は 27 件であり、最終的に 10 件を採録とした。採録率は取り下げを含めると $10/27=37\%$ であった。

採録された 10 件の論文をテーマごとにまとめると、無線・モバイルネットワークに関するものが 3 件、モバイルコンピューティングに関するものが 4 件、ITS に関するものが 3 件である。このように論文テーマは多岐にわたっており、本特集の主題となっている魅力ある情報通信社会のためのモバイル通信と高度交通システムに関する研究分野の広がりをよく示している。その反面、まったく新しいもの、つまり新しい研究テーマ、新しいコンセプト、新しいアプリケーション・端末などを提案するような論文は少なく、また、これらとは対極的なもの、つまり非常に現実的な前提条件・要求条件や課題を想定した論文も少なかった。このような論文が今後、出て来ることも期待したい。

以上、一部課題は残るものの、編集委員会としては、モバイルコンピューティングと ITS 分野の多岐にわたる技術に関して現在注目されかつ質の高い論文を採録できたと考えており、本特集号が今後の研究開発の発展の一助になることを期待している。

最後に、非常に限られた時間の中で、多様かつ多数の査読を行い、出版まで至ることができたのは、幹事や編集委員、査読者、学会関係者の皆様の多大なご協力によるものであり、編集長として厚く御礼申し上げる。

「魅力ある情報通信社会のためのモバイル通信と高度交通システム」特集号編集委員会

- 編集長
竹下 敦 (NTT ドコモ)
- 幹 事
長谷川輝之 (KDDI 研究所), 山口弘純 (大阪大学)
- 編集委員 (五十音順)
石原 進 (静岡大学), 梅津高朗 (大阪大学), 遠藤秀則 (NTT データ),
菊地 悠 (NTT ドコモ), 清原良三 (三菱電機), 重野 寛 (慶應義塾大学),
西 正博 (広島市立大学), 長谷川幹雄 (東京理科大学), 堀内浩規 (KDDI 研究所),
屋代智之 (千葉工業大学), 渡辺 尚 (静岡大学)

^{†1} 株式会社 NTT ドコモ
NTT DOCOMO, INC.